

要 望 書

2022年 1月 15日

北京JAC(世界女性会議ロビイングネットワーク)

<http://pekinjac.or.tv/>

わくわくシニアシングルス

wakusenior@yahoo.co.jp

中高年単身女性の貧困問題解決のために 一目を向け、耳を傾けてください

老後の不安がすべての世代に広がっています。女性の単身世帯の相対的貧困率は、勤労世代約25%と高く、高齢期では50%に近い数字です。第5次男女共同参画基本計画の第6分野では、高齢単身女性の貧困にふれ、高齢期に達するまでの働き方、就職氷河期などの社会的影響など、これまでの長年の男女格差が継続していることを指摘しています。

低額の基礎年金、男女格差の大きい厚生年金、年金だけでは暮らせないと不安を抱える中高年単身女性の大半は不安定で低賃金の仕事に従事してきました。

そのなかで今回のパンデミックは女性の就労の多い職場や非正規で働く女性を直撃しました。

内閣府「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会」の報告書によると、25歳から54歳の女性の失業率が2020年急増し、この世代に1990年代就職氷河期の女性が含まれ、居場所さえなくした女性たちの存在が明らかにされ、高齢期に達する以前に経済的自立が可能となる対策が必要とあります。

私たちは、その背景にある性別分業に基づく世帯単位の社会保障・税制度を見直すことの重要性を指摘してきました。この制度は女性が真っ当に働く権利を奪い、男女の賃金格差や非正規労働の7割を女性が占める現状を作り出してきました。さらに無償の家事労働の9割を女性が担っていることと、ケア労働者の低賃金は無関係ではありません。

しかしながら、中高年単身女性の貧困問題は、社会的にも政治的にも目が向けられず実態調査もなく置き去りにされてきました。

コロナ禍で政府は「女性活躍・男女共同参画の重点方針2021」ではコロナ対策の中心に女性を据える考えを示し、ひとり親や困難や不安を抱える女性の支援とともに中高年単身女性の孤立の実態を把握するとともに、必要な支援策を検討するという方針を初めて打ち出しました。この実態調査に依って、中高年単身女性の貧困の背景にある、低賃金、低年金、低貯蓄、住まいや生活保護へのアクセスの困難等の課題が明らかにされ、対策がなされることを期待しています。

関係各位が、中高年単身女性が直面する困難や貧困に目を向け、耳を傾けて下さることを切に願ひ、以下の要望を提出します。

要 望 事 項

1. 中高年単身女性が安心して生活を送れるために

- ・男女の賃金格差を是正し、最低賃金を上げること。
- ・基礎年金で生活できる年金制度に改正すること。
- ・現行の年金生活者支援給付金(老齢年金)の収入・所得制限を緩和し、対象者を増やすこと。
- ・困窮しているすべての人が安心して生活保護を申請・受給できるような体制を整備すること。
- ・公営住宅への単身者入居促進、及び、高齢者等の民間住宅入居支援の充実促進を図ること。

2. 高齢者が安心して医療・介護を受けられるために

- ・医療機関への入院、介護施設入所の際、身元保証人のいない人へのサポート体制を確立すること。
- ・介護保険施設等の、低所得者向け利用料の補助縮小の見直しをすること。

3. 中高年単身女性が貧困に陥らないような支援体制の整備にむけて

- ・中高年単身女性が直面する困難に対応できる相談支援機関の充実・強化と広報の徹底を図ること。
- ・45歳未満の離職者などを対象にしている「教育訓練支援給付金」制度の年齢制限を撤廃し、中高年層の資格取得を支援すること。
- ・死別、子ども以外の扶養者がいる離別女性に適用されている寡婦控除の様な支援策を全ての単身女性に適用し、平等に支援する制度に整備すること